

学級数の少ない学校の現状と課題

1. 良い点

- ・学習活動や学校行事等において、児童生徒1人ひとりの活躍や登場の機会が多い。
- ・1人ひとりの児童生徒への指導が行き届き、きめ細かな指導を行いやすい。
- ・児童生徒相互、児童生徒と教職員との人間関係が深まりやすい。
- ・運動場をはじめ、図書室、コンピューター室など特別教室の使用において制約を受けない。

2. 課題

①集団づくりを行う上で様々な弊害がある

- ・学年が単学級となり、クラス替えができない。
- ・集団の相互作用による競い合い、いわゆる切磋琢磨する機会が少ない。
- ・集団が小さいため、社会性や協調性を養いにくい。

②学習指導や学校行事が活発になりにくい

- ・同一学年の学習指導において学級分割など、柔軟な指導形態をとりにくい。
- ・音楽や体育の集団活動等が盛り上がり欠ける。また、球技、ゲームなど内容により学習指導が困難となる。
- ・運動会などの学校行事や児童会・生徒会活動、クラブ活動等が活発化しにくい。
- ・遠足や修学旅行にバスを使えず、行き先が限定される。

③教職員数が少ないため、教職員 1 人あたりの負担が大きい

- ・学年を 1 人の教員で受け持つため負担が大きく、日常的な教材研究等に加えて、担当する校務分掌も多い。
- ・教育研究会等の学校代表を兼務せざるを得ず、出張等が多くなり、児童生徒を指導する時間が制限される。
- ・遠足や林間、修学旅行などにおいて、計画から実施までを 1 人で行うことになり、負担が大きい。
- ・教職員どうしの切磋琢磨する機会が少なく、教職員間の相互研究や相互連携等も行いにくい。

④その他

- ・小規模校であっても、学校経営上、一定額の経費は最低限必要であるが、学級数や児童生徒数、教職員数等によって積算されているため、配当予算が充分確保されていない。
- ・修学旅行や宿泊学習、校外学習等における児童生徒 1 人あたりの単価が高い。特に、バス代は児童生徒数と引率教職員数により等分しているが、児童生徒数が少ないため高額となる。
- ・学校教材費についても同様に、児童生徒数によって購入代を等分する物品については、保護者負担額が増える。